

「芸術の道」

(第二十六回)

子供の日、元気に澁刺はつらつと踊る子供たちがいた。バレエスクールの公演である。幼児が音楽に合わせてステップを踏む。その

仕草がとっても可愛い。

これらの動作はリトミックとも共通点がある。

小学校低学年の女兒になると、バレエに近い動きに。これらの年齢層で大切なことは、音楽を感じて身体や手足を動かすのを楽しむことであらう。

本公演のメインは、徳島では通常お目にかかれない「ジゼル」全

幕。主役を演じた2人は

まだ高校1年生だが、その

表現力は素晴らしかった。特に

ジゼルが正気を失った場面では、涙を流した観客も少なくなかったようだ。

子供たちを指導しているのは、

本場ヨーロッパのバレエ団でプリマ

健康のススメ

板東 浩

バレリーナとして活躍された清水洋子先生。そのヨーロッパの宮廷が、バレエの発祥の地であったという。最初はどのような踊りだったのだろうか。音楽と舞踏は古来から一体。オペラとの関わりもあるが、

当時のステージをいちど見てみたいものだ。

以前に、ルイ14世が一心不乱に踊るシーン
を映画でみたことがある。彼は政治家と
いうよりもむしろダンスをこよなく愛した舞踊家。そのため
に歴史も変わるほどだった。

現代は、安易に短
期間で結果が求められる時代。しかし、音楽や舞踊、美術、書道など芸術の道は長く、簡単には答えが得られないもの。

あるレベルまで達すればいちど
ルーツをたどり、古典に戻ってほしいと思ふ。原点に帰ってみると、さ
らなる展開のヒントがひらめくよ
うな気がしませんか。

(医学博士・内科医師)